

# 教育支援 (幸せの子どもの家)



## プロジェクトの背景

ポルポト時代に家族を失った経験を持つソカ氏の孤児院設立の構想に対して、2002年に当会が施設を建設し、創設に携わった。贈呈式は2002年11月30日。主にゴミ山で生活している孤児等を調査面接し、就学意欲のある16名の支援から開始した。CCHはCenter for Children's Happinessの略称。日本語では「幸せの子どもの家」と呼ぶ。カンボジアのNGOとして正式に登録されている団体で、設立当初からソカ氏が所長を務める。これまでに在籍した子どもの数は228名。2015年3月末現在、83名の子どもが生活している。また、CCH内で運営されている小学校には、CCH内の子ども45名の他に外部の子ども127名を受け入れている。

## メッセージ

### 親愛なる日本の支援者の皆様へ

CCH所長 (理事) メチ・ソカ



私はCCH所長のメチ・ソカです。始めにCCHの創設者であり、CCHの子供たちが慕う素敵でやさしい小山内美江子さんに心からの感謝を申し上げたく思います。小山内さんは貧しい今の子供たちの生活を変え、将来より豊かに生活できるように恵まれない子供たちが優れた教育を受ける機会をあたえてください。また、カンボジア中の恵まれない子供たちとCCHのそれぞれを支援するために寄付をしてくださっている日本のJHP支援者の方々に対しても深い感謝の意を表したいと思います。

CCHは、子供たちが有益な知識、技能と良い生活態度を身に付けられるように教育に焦点を当てて活動しています。若いCCHの卒業生は社会に出て良い仕事についています。彼らの多くはCCHで技能訓練を受けた後、ドンボスコ(職業訓練校)でさらに訓練を受け、良い職業につき家族と幸せに暮らしています。ある者はホテルで働き、400米ドルの月収を得ているなど実りある結果がでています。また、他の卒業生はホテル以外の業務につき、少なくとも月に200米ドルの収入を得ています。若いCCHの卒業生たちは、彼らにとってのより良い未来として目標にしていた豊かな生活をおくり、大変幸せに過ごしています。

CCHの中等課程に属している子供たちは一般教養と生活技術および職業技術を学んでいます。この子供たちはCCHで学び、かつ、CCHの年少の子供たちが教科や社会生活での知識をよりよく身に付けることができるようにサポートしています。また、彼らは毎週日曜日の午前中に地域学習活動を学び、自分への自信を深め、将来起こるかもしれない問題をうまく回避できるようカンボジアが抱えている問題点を学ぶために街頭活動をしています。中等課程の子供たちは15歳になるとCCHの外で働くようになります。そこで、彼らは自分自身で賃金を得ることを学び、どのように社会の中で生活していくかを徐々に身に付けます。そして、18歳になると彼らは法的にも社会的にも自分の行動に責任を持つこととなります。

現在7人の卒業生が米国の大学で学んでいます。彼らのうちで何人かは家族を助けたり、カンボジア社会に貢献したりするために卒業後、カンボジアに帰ってきます。

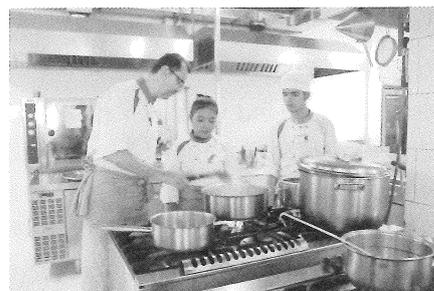
カンボジアにおける教育はさらにその質を良くしていかなければならないし、子供たちが自活できるような、また相互に助け合えるような能力を身に付けることに一層焦点を当てて行かなければなりません。それは、それぞれの子供が将来の生活を考え、社会環境の変化に対応し、家庭においても、学校においても、社会においてもよき人、また、よき市民にどうすればなれるかを考える力を与えることになるからです。

子供たちが良き未来を築くために必要な教育を援助して下さる親切で寛大なJHP支援者の皆様に対して、私はこの機会を利用して心からの感謝を申しあげたいと思います。

皆様のご親切と私たちに向けられた暖かさが皆様の幸福と繁栄をもたらすことを心から祈念いたします。心からの感謝と、皆様のご多幸をお祈りいたします。



CCH内の小学校で学ぶ子どもたち



技能の習得を目指す若者たち



農村で開催するロードショー

項目	総数	男子	女子
小学生	48	21	27
中学生	35	16	19
小計	83	37	46
(CCH現在数)			
CCHサポートの プノンペン市内大学生	2	0	2
自立している 高校生、大学生	46	21	25
社会人	90	61	29
(CCH卒業生)			
海外のインターナショナル スクール在籍者	7	3	4
支援総数	228	122	106